

保護者会、三者面談で活用できる自己診断シート付

保護者の 「干渉」「無関心」に注目

第4回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」報告Part2

子どもに対する保護者の態度が、子どもの意欲や行動に大きな影響を及ぼすことは
多くの先生方がご存じでしょう。

とりわけ「干渉」か「無関心」という保護者の極端な態度が

高校生の進路選択意識に大きな影響を及ぼすことが昨年行った調査で明らかになりました。

その部分の調査結果を報告しつつ、小誌作成の「保護者のための自己診断シート」を添付します。

31p～35pをコピーして配付資料とするなど、

進路選択に関する保護者会や三者面談でぜひご活用ください。

取材・文／荒尾貴正(本誌編集デスク) 清水由佳

「干渉」23%「無関心」13%…

保護者の態度が高校生の進路意識に大きく影響

進路に関する親子コミュニケーションのあり方を知るために隔年で実施している「高校生と保護者の進路に関する意識調査」(社)全国高等学校PTA連合会、(株)リクルート合同調査)。この第4回調査(2009年実施)で高校生に対して、保護者の態度は「干渉」「ちょうどいい」「無関心」のどれに当てはまるかを尋ねた。結果は右下のとおり。「干渉」は2つ合わせて23%、「無関心」も合計13%と、「ちょうどいい」の63

%と比べれば少ないものの、決して無視できない割合だということがわかった。さらに明らかになったのは、「干渉」や「無関心」といった保護者の態度が高校生の進路意識や態度に及ぼす数々の「悪影響」である。次ページからその結果を示していく。高校生の主体的で、望ましい進路選択のために、保護者会等でこのデータを紹介するとともに、34pの「保護者のための自己診断シート」をぜひ活用していただきたい。

※以降の文章およびグラフの中で、次のような表記をする。【○○○型】とは保護者ではなく、そう感じている「高校生」を指している。

干渉型＝「保護者から干渉されていると感じている」高校生

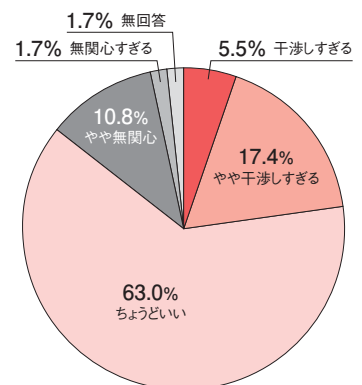
ちょうどいい型＝「保護者の態度がちょうどいいと感じている」高校生

無関心型＝「保護者は無関心だと感じている」高校生

第4回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」概要

- 調査対象／全国の高校2年生をもつ保護者とその子ども(全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県の公立高校27校:2年生2クラス分の高校生と保護者)
- 調査期間／2009年9月28日～10月30日
- 調査方法／①高校生:ホームルームにてアンケートに回答
②保護者:高校生から保護者へアンケートを手渡し
③学級担任が高校生と保護者分を取りまとめ、その後学校責任者が学校分として返送
- 回収数・サンプル数／高校生1953、保護者1495

※本調査全体の結果は小誌No.30(2010.2月発行)をご覧ください

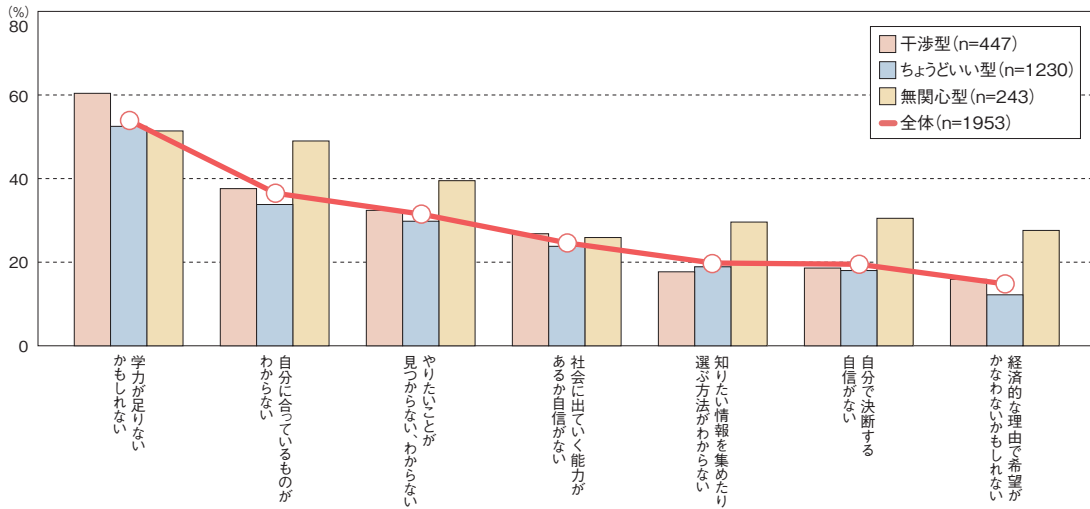


I 進路選択での気がかり

干渉型は学力に、
無関心型は多くのことに
「自信がない」

高校生の進路選択についての気がかりは、全体順位では1位「学力が足りないかもしれない」、2位「自分に合っているもの」がわからない」といった結果だった。これを「干渉型」、「ちょうどいい型」、「無関心型」の別に見ると、図のような傾向があった。まず干渉型は、「学力が足りない」が他の型に比べて高く、学力の自信のなさが顕著だ。無関心型はさらに深刻だ。「自分に合っているもの」や「やりたいことがわからない、わからない」自信がない、選び方がわからない…若者共通の課題といわれていることが他の型に比べ目立って高い。また、「経済的な理由で希望が…」も3割近くいる。無関心型と家庭の経済状態との少なからぬ関連が見える。

【高校生】進路選択についてどんなことが気がかりか(進路選択に関する保護者の態度別)

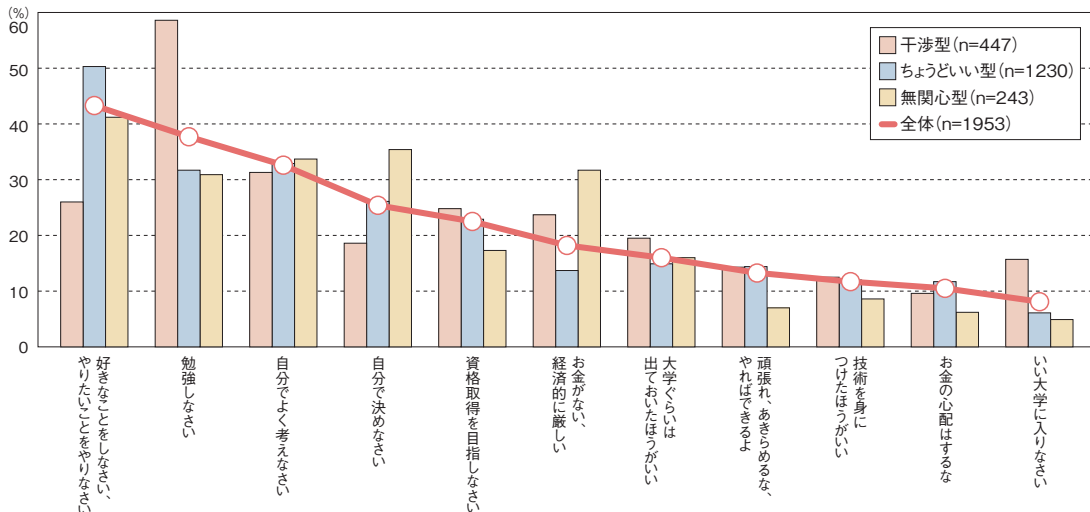


II 保護者はどんな言葉を使うか

干渉型は
「勉強しなさい」+
「いい大学に入りなさい」

進路の話をするとき保護者はどんな言葉をよく使うか。例年「好きなことをしなさい」が全体の1位で、昨年と同様だったが、型別に見ていくと傾向が大きく異なることがわかった。干渉型は1位が「勉強しなさい」で、他の項目を大きく引き離している。また、「いい大学に入りなさい」が他の型よりも高い。「干渉を感じる」高校生の保護者に特徴的なのがこの二つの言葉だ。無関心型は「自分で決めなさい」と「お金がない」が他の型よりも高い。ちょうどいい型は「好きなことをしなさい」が際立っている。そういった高校生の感想には、「頑張ろうと思う」「ありがたい」「うれしい」など、喜びの感じられるコメントが多かった。

【高校生】進路の話をするときに保護者はどんな言葉を使うか(進路選択に関する保護者の態度別)



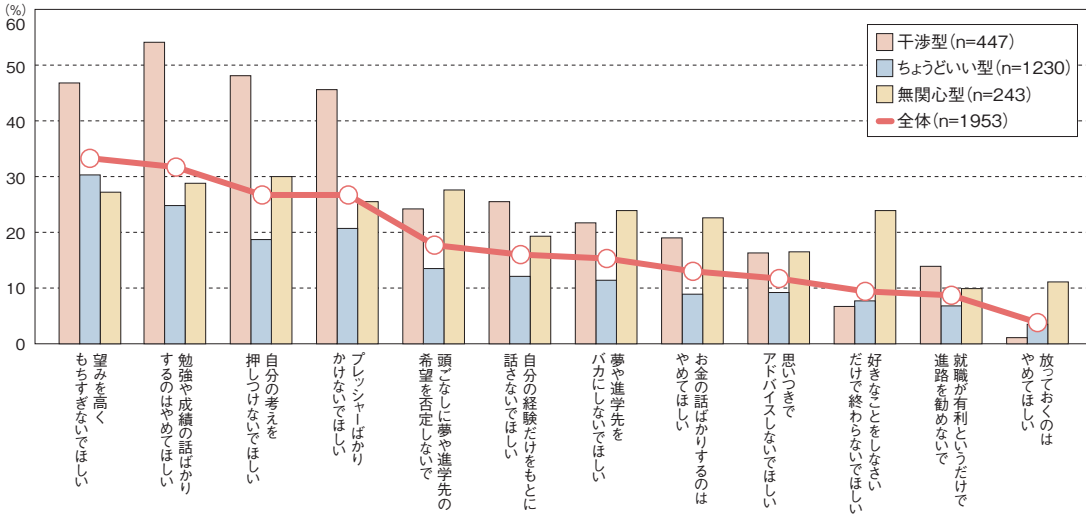
干渉型=「保護者から干渉されている」と感じている高校生 ちょうどいい型=「保護者の態度がちょうどいいと感じている」高校生 無関心型=「保護者は無関心だと感じている」高校生

Ⅲ 保護者にやめてほしいこと

「やめてほしい」のは
価値観の押しつけ

干渉型、無関心型はちょうどいい型に比べて保護者にやめてほしいことの割合が高い項目が多く、特に干渉型は「保護者にやめてほしい」ことばかりという印象だ。「自分の考えを押しつけないで」「望みを高くもちすぎないで」といった干渉型が特にやめてほしいことには、保護者の価値観中心のコミュニケーションの様子が見える。「頭ごなしに夢や進学先の希望を否定しないで」「夢や進学先をバカにしないで」といった項目は無関心型も高く、やはり保護者の価値観で子どもの進路を判断していることがうかがえる。一方で、「好きなことをしなさいだけで終わらないで」「には放任の様子が見える。「お金の話ばかり」は干渉型、無関心型ともに高かった。

【高校生】進路選択で保護者にやめてほしいこと (進路選択に関する保護者の態度別)

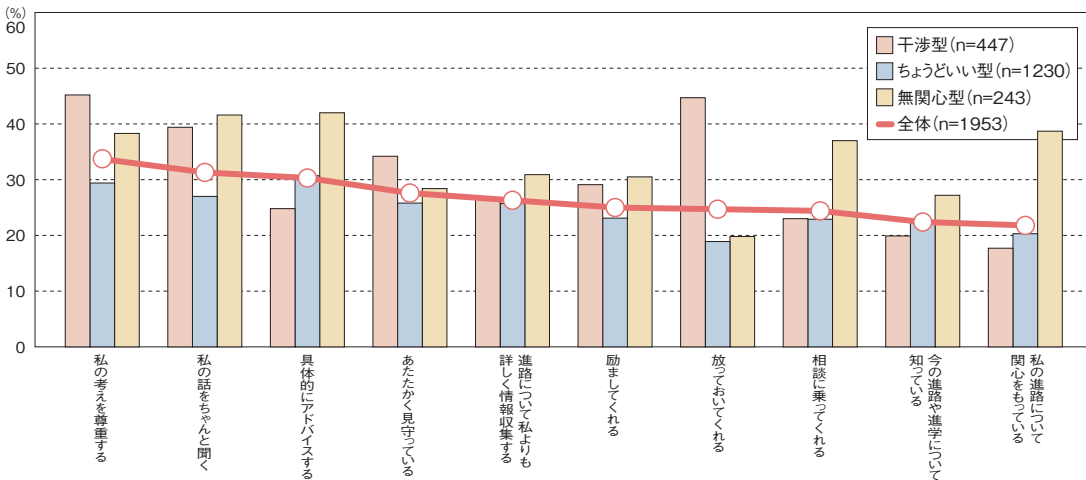


Ⅳ 保護者にしてほしいこと

干渉型は
適度な距離感、
無関心型はアドバイス

保護者にしてほしいことも、ちょうどいい型に比べ、干渉型、無関心型が高い項目が多い。どちらの型も高かったのは「私の考えを尊重する」「私の話をちゃんと聞く」という高校生中心の「コミュニケーション」の形だ。「励ましてくれる」も共通して高い。さらに干渉型は「放っておいてくれる」「あなたかく見守っている」といった適度な距離感を望んでいる。無関心型が望んでいることは多く、最もしてほしいのは「具体的にアドバイスする」。「私の進路について関心をもっている」と「相談に乗ってくれる」の高さは干渉型とは対照的だ。無関心型が保護者とのかわりを渴望していることがわかる。

【高校生】進路選択で保護者にしてほしいこと (進路選択に関する保護者の態度別)



干渉型=「保護者から干渉されていると感じている」高校生 ちょうどいい型=「保護者の態度がちょうどいいと感じている」高校生 無関心型=「保護者は無関心だと感じている」高校生

V 保護者にあてはまること

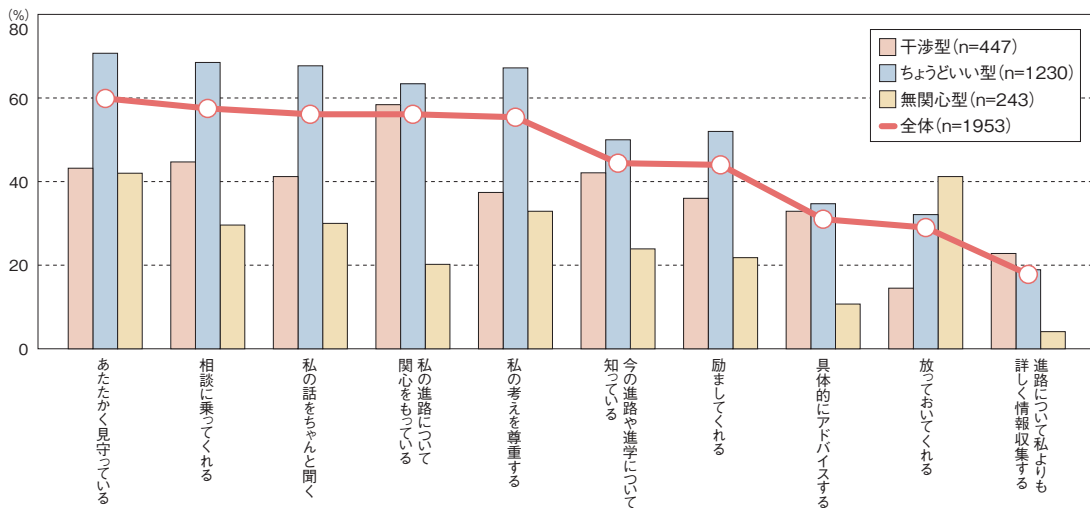
「ちょうどいい」保護者は
あたたかく
見守っている

ちょうどいい型が多くの項目で
高い数値を示した。「あたたかく
見守っている」「相談に乗ってくれ
る」「私の話をちゃんと聞く」「私
の考えを尊重する」といった上位
の項目を見ていくと、このよう
な保護者の態度が高校生にとっ
て「ちょうどいい」のだろうとい
うことが想像できる。

干渉型は「私の進路について関
心をもっている」「具体的にアドバ
イスする」「進路について私より
も詳しく情報収集する」といった
項目がちょうどいい型と同等か上
回っているが、これら以外の項目
が低い傾向にある。

無関心型は、やはり「放っておい
てくれる」が他の型よりも高い。
そして、それ以外の項目は全て
最低の値となっているのが気にな
るところだ。

【高校生】進路選択で保護者にあてはまること (進路選択に関する保護者の態度別)



VI 高校の進路指導への要望

干渉型、無関心型は
実は教員の
指導を望んでいる

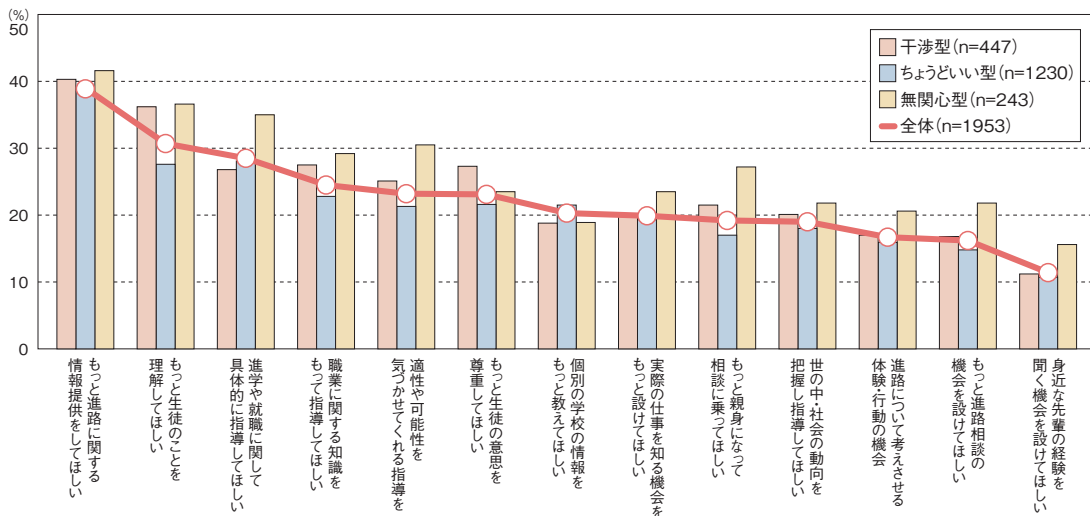
高校生が高校の進路指導へ要
望することも、保護者の態度の
感じ方で分けると興味深い傾向
が見えてくる。概して言えば、
干渉型と無関心型は、ちょうどい
い型よりも進路指導への要望が
多い。

干渉型は、「もっと生徒のこと
を理解してほしい」「もっと生徒
の意思を尊重してほしい」など、
共感を求める項目が高い。

無関心型はどの項目も高く、
共感を求める項目以外に、進学
や就職、職業に関する具体的な
情報や指導、また進路相談の機
会を多く求めている。

自分の進路を考えるにあたっ
て、保護者との相談だけでは不
十分なため、もっと先生に助け
てもらいたいという高校生の心の叫
びのようにも見える。

【高校生】高校の進路指導にどのようなことを要望するか (進路選択に関する保護者の態度別)



干渉型＝「保護者から干渉されていると感じている」高校生 ちょうどいい型＝「保護者の態度がちょうどいいと感じている」高校生 無関心型＝「保護者は無関心だと感じている」高校生

「干渉?」「無関心?」お子さんとのかかわり方をセルフチェック!

保護者のための自己診断シート

お子さんとの距離感は、なかなか難しいもの。わかっていてもついつい口うるさくなってしまうたり、逆に黙って見守っていたつもりがお子さんから「無関心」と思われていたり。以下の自己診断シートを使って、ご自分の傾向を知り、お子さんの進路選択がうまくいくようなサポートをしていきたいものです。

■以下の項目のうち、当てはまるものに✓をつけてください。
「どちらかという当てはまる」というようなものにも✓をつけてください。

- ①うちの子どもはのんびりしている。だから、つい心配になってあれこれ聞いてしまう。
- ②保護者として、子どもの進路を決めてあげるのは当然のことだと思う。
- ③進路や受験情報について、子どもより自分のほうが調べていると思う。
- ④子ども一人の考えで、いい選択ができるとは思えない。
- ⑤親子の間では、十分な会話が何よりも大事だと思っている。
- ⑥子どもにとって、どんな生き方が幸せなのかは私にはわかる。
- ⑦今は、いい大学に入ることが、子どもにとっての一番の幸せだと思う。

計 個

- ⑧高校生は大人なんだから、自分のことは自分で決めるべきだと思う。
- ⑨進路に関して、親があまり口うるさく意見を言うのはよくないと思っている。
- ⑩私は子どものことを信頼しているので、進路選択は子どもに任せている。
- ⑪私には、子どもの進路の相談に乗ってあげられるほどの力はない。
- ⑫私は私、子どもは子ども。人それぞれなのだから、相談されても困ってしまう。
- ⑬進路の話はよくわからないので、「先生と相談しなさい」と言うことが多い。
- ⑭進路の話をしていて、「それはいくらかかるの?」とお金のことを聞くことが多い。

計 個

※①～⑦の✓の数と、⑧～⑭の✓の数を比べ、前者のほうが多い人は「干渉」の傾向が、逆に、後者が多い人は「無関心」の傾向にあるといえるでしょう。

自己診断シート監修者からのアドバイス

自分を見つめ直すために 保護者同士でも話し合いを

子どもとの程よい距離感を保つのは、とても難しいことだと思います。しかも、子どもが「干渉されている」とか「うちの親は無関心だ」と感じていることに、保護者の側からはなかなか気づきづらいものです。たとえば子どもには、「干渉」と映っている行動をとっていたとしても、「子どものためを思ってかかわっているのに、なぜ悪いのか」と保護者は思いがちです。そのため、「もう少し見守ってあげてください」「もう少し話を聞いてあげてください」といったアドバイスをされても、頭ではわかっていても、実行するのは難しいのです。

しかしながら、30p～33pの調査結果では、具体的にどのような言動が子どもにとって「干渉しすぎ」「無関心」と映るのか、データで一目瞭然になっています。こういった客観的なデータから、子どもたちの本音を知ること大切です。

さらに、保護者会などの場で、34pのセルフチェックをそれぞれに行っていたら、5人くらいのグループに分かれて、保護者同士で語り合っていたのもいいと思います。「他の人たちは、どんなふうに子どもに接しているのだろうか?」を知ることができます。他のご家庭の様子を知ると、少し安心できるのではないのでしょうか。

多くの人とかかわれる機会を 意識的に作りましょう

お子さんと進路の話をする際に大切なのは、「基本的にあなたの好きなことをしてほしいけれど、わからないことも多いだろうから、一緒に考え、調べていこう」と寄り添う姿勢を保護者がもつことです。それも1度で済ませるのではなく、時間を置いて繰り返し働きかけることが必要です。子どもの迷いのプロセスに保護者の方々も寄り合い、楽しんでいけたらいいと思います。

高校生が進路を考えるうえで悩むのは、具体的にイメージできる将来像が身近に少ないという点があると思います。そこで、保護者の皆さんには、ご家庭でホームパーティーを開き、友人を招いて、お子さんが様々な大人と接する機会を設けてあげるようにしてほしいと思います。子どもははじかに接した大人からしか影響を受けません。そのことを保護者にも、先生方にも理解していただきたいですね。



諸富祥彦先生

もろとみ・よしひこ ● 明治大学文学部教授、臨床心理士、教育学博士。現場教師の作戦参謀を自認。「男の子の育て方」「あなたのお子さん、このままでは大変なことになりますよーカリスマカウンセラが語る究極の子育て術」など著書多数。
<http://morotomi.net/>

【アドバイス①】①～⑦の√数が多い人

「干渉」傾向の保護者は 一歩引くように心がけたいものです

残念ながら、自分ではよかれと思っていることでも、子どもにとっては「干渉しすぎ」と感じられることは多いようです。普段の会話を思い返してみても、子どもの考えを聞くよりも、一方的に自分の意見を話しているという場面が多くはありませんか? また、夢物語のような進路志望を語る子どもに対して、「そんなことは無理」と頭ごなしに否定することも避けたいところです。お子さんと話をする際には、意識して少し引き、お子さんの話にまず耳を傾けてあげてください。当然、保護者として「その進路で大丈夫なのか心配」といった感情は湧いてくるでしょう。そこで、いきなり「そんな進路はダメ」と言うのではなく、「その進路が大丈夫なのか、私は心配」と、心配している気持ちを伝えてあげてください。心配されているということが伝われば、お子さんは自分なりに考え始めることでしょう。保護者の方々は、それを見守ってあげてほしいと思います。

このタイプの保護者に、高校生がやめてほしいこと WORST3

- WORST1 勉強や成績の話ばかりするのはやめてほしい
- WORST2 自分の考えを押しつけないでほしい
- WORST3 望みを高くもちすぎないでほしい

.....

【アドバイス②】⑧～⑭の√数が多い人

「無関心」傾向の保護者は 「構ってほしい」気持ちを受け止めたいものです

日本の社会全体が子ども化しているということは、よく指摘されることです。最近の高校生にも「もっと構ってほしい、自分に関心をもってほしい」という子が意外に多くなっています。そのため親が、「高校生なんだから、自分で何でも決めたいはず」とあえて放任していたことが、子どもには「自分に関心をもってくれない」と映ることもあるようです。最近の進路事情がよくわからないので口の出しようがないと思われることも多いでしょう。しかし、わからないながらも一緒になって考えてくれるという姿勢に、子どもは安心感を覚えます。また、保護者としては「お金」のことも気になるところですが、お金の話ばかりしてしまうと、子どもは自分には興味をもってもらっていないと受け止めがち。そこでまずは、意識的に子どもと話をする時間を設けて、何が好きで、何をしてみたいと思っているのか、興味・関心のありかを聞いてあげることからスタートしてみてください。

このタイプの保護者に、高校生がしてほしいこと BEST3

- BEST1 具体的にアドバイスしてほしい
- BEST2 私の話をちゃんと聞いてほしい
- BEST3 私の進路について関心をもってほしい